



消防職員らの前で感謝状を受け取る坂本清さん

NEWS 市観光物産協会が小金井市商工会などと交流協定 交流と振興、協力を誓う



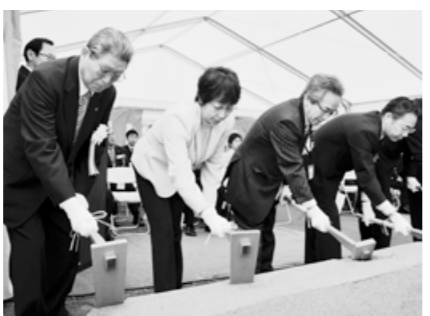
調印後に握手をする細田会長（右）と今井会長（中）、斉藤浩小金井市商工会副会長（左）

6月1日、東京都小金井市の小金井市商工会（村越政雄会長）と小金井市商店会連合会（今井啓一郎会長）、久慈市観光物産協会（細田稔男会長）は、交流の促進と観光・商工業の振興、災害時の協力を進める交流協定を締結。やませ土風館で行われた調印式には、関係者ら約30人が参加しました。

久慈市と小金井市の交流は平成11年に旧山形村がセカンドスクール誘致に小金井市を訪問したことが始まり。以降、小金井校まつりや同商工会が小金井市内で運営する店舗などでの特産品の出展や販売、交流が続けられています。また、東日本大震災発生後は小金井市で復興を応援する協議会が設立され、小金井市内での復興市場開催などを通じて復興を後押ししてきました。今井会長は「これからも物産販売などで久慈市をPRしていくので、末永くお付き合いください」とあいさつ。細田会長は「切磋琢磨しあいながら交流を深めていきましよう。これからもご指導をお願いいたします」と交流の活性化を願いました。

久慈市と小金井市の交流は平成11年に旧山形村がセカンドスクール誘致に小金井市を訪問したことが始まり。以降、小金井校まつりや同商工会が小金井市内で運営する店舗などでの特産品の出展や販売、交流が続けられています。また、東日本大震災発生後は小金井市で復興を応援する協議会が設立され、小金井市内での復興市場開催などを通じて復興を後押ししてきました。今井会長は「これからも物産販売などで久慈市をPRしていくので、末永くお付き合いください」とあいさつ。細田会長は「切磋琢磨しあいながら交流を深めていきましよう。これからもご指導をお願いいたします」と交流の活性化を願いました。

NEWS 集団移転用地で安全祈願 再建へ希望膨らむ



力強く鍬を入れる参加者（久慈湊・大崎地区）

5月24日、久慈湊・大崎地区と長内町元木沢地区の集団移転用地造成工事の安全祈願祭が現地で行われました。久慈湊・大崎地区では約60人、元木沢地区では約40人が参加。移転者や地元町内会関係者らが工事の安全と早期完成を祈願しました。文市長は「集団移転用地の早

期完成を目指して工事を行います。合わせて周辺の避難道路や避難施設の整備も進め、地域全体の防災機能の強化を図ります」と意気込みを語りました。移転者の中田恵子さん（湊町）は「この2年間、住宅の再建を迷うこともありましたが、今日の祈願祭を終え、また湊町へ戻れるという希望が膨らみました」と晴れ晴れとした様子で喜びを語りました。同工事は、国の復興交付金事業で、久慈湊・大崎地区に14区画（うち災害公営住宅5区画）・約8100平方メートルを造成し12月末の完成を、また元木沢地区には5区画（うち災害公営住宅3区画）・約3300平方メートルを造成し、11月末の完成を目指します。

期完成を目指して工事を行います。合わせて周辺の避難道路や避難施設の整備も進め、地域全体の防災機能の強化を図ります」と意気込みを語りました。移転者の中田恵子さん（湊町）は「この2年間、住宅の再建を迷うこともありましたが、今日の祈願祭を終え、また湊町へ戻れるという希望が膨らみました」と晴れ晴れとした様子で喜びを語りました。同工事は、国の復興交付金事業で、久慈湊・大崎地区に14区画（うち災害公営住宅5区画）・約8100平方メートルを造成し12月末の完成を、また元木沢地区には5区画（うち災害公営住宅3区画）・約3300平方メートルを造成し、11月末の完成を目指します。

NEWS 長内小が長内地区13町内会と協定締結 児童の安全、地域の力で守る



協定締結後、記念撮影をする各町内会の代表と佐藤副校長（前列右から3人目）

5月25日、長内小学校（小原昭徳校長）と長内地区の13町内会などの間で、災害時支援協定が締結されました。協定は同校が町内会に協力を呼びかけて実現したもので、市内では初の取り組みです。締結式は長内活き活き振興協議会（一沢明男会長）の総会で行われ、地区を代表して一沢会長と同校の佐藤淳副校長が協定書を交わしました。協定の主な内容は、災害が発生した時に児童の避難誘導に協力することや、学校が実施する避難訓練への協力と参加など6項目。同会では締結を機に住民の防災意識の向上も図りたいと考えています。締結後、一沢会長は「今回

の取り組みは地域と学校の関係を再構築する良い機会。地域の安全を地域住民の力で守っていききたいです」と決意を新たにしました。佐藤副校長は「児童の安全と命を守る取り組みに感謝しています。学校も地域と協力し、児童の安全確保に努めていきたいです」と話しました。同校では、協定締結後初めての避難訓練を6月3日に実施しました。訓練は下校時にマグニチュード8以上の地震が発生し大津波警報が発令されたという想定で行われ、スクールガードや父母ら約30人が参加。児童は地域の人と一緒に避難場所や避難方法を確認していました。

の取り組みは地域と学校の関係を再構築する良い機会。地域の安全を地域住民の力で守っていききたいです」と決意を新たにしました。佐藤副校長は「児童の安全と命を守る取り組みに感謝しています。学校も地域と協力し、児童の安全確保に努めていきたいです」と話しました。同校では、協定締結後初めての避難訓練を6月3日に実施しました。訓練は下校時にマグニチュード8以上の地震が発生し大津波警報が発令されたという想定で行われ、スクールガードや父母ら約30人が参加。児童は地域の人と一緒に避難場所や避難方法を確認していました。



避難する長内小の児童たち

NEWS イー歯トープ8020 コンクール表彰伝達式 健康の源は食生活と歯磨き



謝辞を述べる小倉リサさん

6月10日、元気の泉で岩手県イー歯トープ8020コンクールの表彰伝達式が行われました。このコンクールは、80歳以上で自分の歯が20本以上あること、かみ合わせがしっかりしていることなどの要件を満たしている人を岩手県歯科医師会が表彰するもので、本年度、市では18人が受賞しました。式には受賞者10人が参加。久慈市歯科医師会の岩本一夫会長から表彰状を受け取りました。その後、受賞者を代表して小倉リサさんが「こうして自分の歯が20本以上あり、自分の歯で食べられることを幸せに思います。歯を磨いたり、食生活に気を付けること

- 受賞者は次のとおり。（年齢順、敬称略）
- ▼久慈ノブ（宇部町）▼松本五郎（栄町）▼佐々木要次郎（大沢）▼久保徳太郎（夏井町）▼大芦ツヨ（同）▼林崎實（待浜町）▼高山宗三（柏崎）▼八木巻二郎（大川目町）▼小倉リサ（同）▼佐々木喜久雄（同）▼中森ミツエ（寺里）▼砂子友男（大川目町）▼岩崎ミサ（長内町）▼下斗米啓造（山形町）▼上川原時雄（待浜町）▼大森健一（夏井町）▼高木勇吉（待浜町）▼田表永七（大川目町）

は何気ない習慣ですが、80年の健康の源。今後もこの歯を保つことを誓います」と謝辞を述べました。受賞者は次のとおり。（年齢順、敬称略）



伝達式を終え、出席した受賞者で記念撮影



ポストカードを制作した宇部京子さん

NEWS 北三陸のポストカード 売り上げを震災義援金に寄付

詩人の宇部京子さん（宇部町）が、この10年間で撮りためた写真や自身の詩、出会ったおばあさんたちの方言を組み合わせたオリジナルポストカード全24枚を制作しました。価格は1枚80円で、6枚セット480円も用意。やませ土風館や三陸鉄道久慈駅などで販売。1枚あたり20円が震災義援金に充てられます。